

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 新道寺 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていた。無解答率は低かった。 読む能力の問題は正答率が低かった。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える問題。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて必要な情報をとらえる問題。相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題。
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を上回っていた。 書く能力を問う問題の正答率がやや低い傾向にあった。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの参加者として、質問の意図をとらえる問題。計画的に話し合うために、司会の役割をとらえる問題。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題。
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていた。 数と計算、図形の問題の正答率が低かった。無解答率の高い問題がいくつか見られた。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 180°より大きい角の大きさを求める問題。異種の二量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合を比べる問題。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 小数の除法の意味を問う問題。円周率の意味を問う問題。
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていた。無解答率は全国より低い傾向にあった。 領域別では、量と測定以外の正答率がやや低かった。特に図形の問題の正答率が低かった。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 示された数量を関連付け、根拠を明確にしてその事象が正しいことを記述する問題。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフや帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断する問題。
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。無解答率も低かった。 自然事象への関心・意欲・態度の問題の正答率がやや低い傾向にあった。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察する問題。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ○「家で宿題はきちんとしている」児童の割合は全国より高い。(してない児童はいない)しかし、「自分で計画を立てて勉強をしている」児童の割合は低い。 ○学校の授業以外での勉強をしない児童はいない。しかし1日1時間以上勉強をする児童の割合は全国より低い。 ○地域の行事(北九州市全体の行事等も含む)に参加している児童の割合は全国より高い。しかし、地域や社会で起こっている問題や出来事への関心は低い。 ○「将来の夢や目標を持っている」児童は全国平均より高い。しかし「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合は低い。 ○「朝食を毎日食べている」児童の割合は、全国平均より低い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 授業における「話し合い活動」を充実させ、思考力・表現力の育成を目指す。
- 学力向上のための特設時間(チャレンジタイム)の取組により、基礎学力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習充実の取組の継続(宿題のスタンダード化、自学ノートによる自学の推進)
- 家庭生活改善のための保護者への啓発(あいさつ運動の推進、携帯・スマホの使い方、基本的生活習慣の改善等)